

平成22～27年度の観光功労者表彰一覧

年度	区分	名称	功績概要
22	個人	<p>對馬 忠雄 (社団法人青森観光コンベンション協会副会長)</p>	<p>平成6年に社団法人青森観光協会副会長に就任以来17年間にわたり、青森ねぶた祭副実行委員長、総務委員長、冬まつり担当副会長など各種実行委員長等を務め、ねぶた祭のほか各種イベントにより県内外からの誘客促進を図りながら、中心市街地の賑い創出など、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>柳沢 卓美 (種差観光協会会長)</p>	<p>平成元年より種差観光協会役員を務め、平成13年に会長就任。種差海岸の天然芝生地の保護・保全に努め、同海岸において開催される各種ウォークイベントのガイドとして、同海岸の魅力を県内外に情報発信してきたほか、国指定名勝の同海岸の国立公園化を目指した活動を展開するなど、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
	団体	<p>青森県旅館ホテル生活衛生同業組合女性部会 (女性部会長 石澤 照代)</p>	<p>平成2年に青森県旅館業環境衛生同業組合の女性部会として創設。東北新幹線全線開業に向け、7年前から県内6ブロック毎に特産品を活用した料理メニューの開発に努め、お客さまへ提供してきたほか、県内外の観光PRキャラバン等にも積極的に参加し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>三内丸山応援隊 (会長 一町田 工)</p>	<p>貴重な縄文遺跡である三内丸山遺跡の保存と活用のために、民間の立場から寄与することを目的に平成7年に発足。遺跡ガイドや体験活動で、外国人観光客を含め県内外からの約196万人(発足から平成22年度末まで)を案内。平成12年11月には国の特別史跡に指定された同遺跡の保存・活用や体験学習の運営に協力してきたほか、平成22年7月の縄文時遊館内「さんまるミュージアム」の運営にも参画し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
23	個人	<p>石倉 倉松 (社団法人三沢市観光協会顧問)</p>	<p>昭和34年の三沢市観光協会設立当初から役員に就任以来、永きにわたって、小川原湖を中心とした観光資源の創出や情報発信に尽力され、各種イベントの企画運営を行うなど本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>及川 次夫 (六ヶ所村観光協会会長)</p>	<p>平成9年から六ヶ所村観光協会役員に就任以来、永きにわたって、村の基幹的イベントにおいて実行委員長として運営に携わり観光客増加に貢献するなど、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>瀬川 征吉 (市民ガイド八戸協会代表)</p>	<p>平成4年から観光ガイド活動を積極的に行い、平成13年1月に市民ガイド八戸協会を設立、平成14年12月の東北新幹線八戸開業では「おもてなし隊」として活躍したほか、青森県観光ボランティアガイド協議会会長としてガイド団体の連携とスキルアップに力を注ぐなど、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
	団体	<p>こみせ観光ボランティアガイドの会 (会長 小野 せつ子)</p>	<p>平成12年の設立以来、「こみせ」の歴史・文化を紹介するとともに、講演会開催や各種研修会参加などガイドのスキルアップや、観光資源の情報発信に努め、地域の知名度向上に大きく寄与し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>十和田湖・奥入瀬観光ボランティアの会 (代表 小笠原 哲夫)</p>	<p>平成12年の設立以来、十和田・奥入瀬や八甲田を訪れるお客様に対するガイド活動とともに会員のスキルアップと情報発信に努め、地域の知名度向上に大きく寄与し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
24	個人	<p>大見 光男 (大間町観光協会会長)</p>	<p>平成8年から大間町観光協会会長に就任以来、永きにわたって、大間町の観光資源の創出や各種イベントの企画運営や、台湾との海外交流を行ったほか、観光情報の発信に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>東 壽一 (南部町観光協会会長)</p>	<p>平成13年から旧名川町観光協会会長として農業観光の発展に尽力したほか、平成18年からは南部町観光協会の初代会長として、地域の伝統芸能による情報発信に努めるなど本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>高橋 博美 (一般社団法人三沢市観光協会顧問)</p>	<p>昭和62年三沢市観光協会副会長、平成17年同協会会長に就任以来、永きにわたって、三沢市の観光資源の創出や各種イベントの企画運営を行ったほか、観光情報の発信に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>前田 光義 (三厩観光協会顧問)</p>	<p>平成13年から三厩村観光協会会長に就任以来、永きにわたって、地域イベントの企画運営を行ったほか、観光情報の発信に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
	団体	<p>十和田湖自然ガイドクラブ (代表 吉崎 明子)</p>	<p>平成13年の設立以来、十和田湖を訪れるお客様に対するガイド活動を行うほか、環境美化活動による観光地の景観向上等にも努め、地域の知名度向上に大きく寄与し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
25	個人	<p>蝦名 幸一 (浅虫温泉旅館組合長)</p>	<p>平成3年から浅虫温泉旅館組合の組合長として22年間の永きに渡り、観光地浅虫温泉の基盤づくりに諸団体と強調し、浅虫温泉の期間産業としての役割を担うと共に浅虫温泉の重要イベントでもある浅虫ねぶた祭り、浅虫温泉花火大会に実行委員長などを務め、浅虫温泉の賑いづくりに尽力し本県観光振興に顕著な功績があった。</p>
		<p>川山 光則 (小泊観光協会会長)</p>	<p>昭和62年から小泊観光協会役員として、旧小泊村の観光資源創出や各種イベントの企画運営を行ってきたほか、平成11年小泊観光協会会長就任以来、春物語体験ツアーを開催するなど地域活性化につながる観光活動を展開し、本県観光振興に顕著な功績があった。</p>

25	団体	十和田湖冬物語実行委員会 (実行委員長 橋野修一)	33年の歴史があり、現在の「十和田湖冬物語実行委員会」としても16年間連続開催中である。平成15年の東北新幹線八戸開業の際は、それまで17日間であった開催期間を31日間に延長し、27.5万人の来場者を記録した。平成14年から毎年20万人以上の観光客を受け入れており、本県冬季観光をけん引し続けている。
		三沢国際クラブ (代表 三上 博利)	平成元年より毎年、アメリカンデーを開催し25年目を迎えることとなったが、年々開催規模も拡大してきており、今では当市を代表する観光イベントとなっている。また日米交流の観点からその他のイベントにおいても積極的に関わり、県内外からの誘客に貢献するなど、本県観光振興に顕著な功績があった。
		あおぞら組 (組長 島 康子)	平成12年2月まちおこしゲリラ集団「あおぞら組」を結成し、「マグロー筋」Tシャツやマグロのほり開発などを行ってきた。「旗振りウエルカム活動」などのおもしろがる心で地域を元気にする試みを行っている。平成13年から「大間やど会」の副会長として各種イベントを企画、実施。マグロを生かしたまちづくりや観光、人の交流に積極的に取り組み全国的に大間町の知名度アップに大きく寄与し、本県観光振興に顕著な功績があった。
26	個人	下道 元治郎 (おいらせ町観光協会顧問)	昭和58年の下田町観光協会設立当初から会長、顧問を歴任し、平成18年のおいらせ町観光協会設立以来、顧問として、永きにわたり、おいらせ町の観光資源の創出や各種イベントの企画運営を行ったほか、観光情報の発信に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。
		新田 純治 (七戸町文化ガイドの会会長)	平成16年に七戸町文化ガイドの会副会長に就任以来、七戸町文化ガイドの会会長、しちのへ春祭り連絡協議会会長、第28回地域づくり団体全国研修交流会青森大会七戸町まちづくりの会会長、青森県観光ボランティア連絡協議会会長として、永きにわたり、七戸町を中心として本県の観光情報の発信に努め、地域の知名度向上に大きく寄与するなど本県観光振興に顕著な功績があった。
		伊藤 良二 (元つがる市観光協会会長)	平成12年に木造町観光協会会長に就任、平成17年から平成25年までつがる市観光協会会長として、永きにわたり、つがる市定期観光バスツアーなどつがる市の観光資源の創出や各種イベントの企画運営を行ったほか、観光情報の発信に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。
		中村 秀行 (一般社団法人十和田湖国立公園協会理事長)	平成3年より一般社団法人十和田湖国立協会役員を務め、平成26年に理事長に就任し、永きにわたり、十和田八幡平国立公園における十和田湖・奥入瀬・八甲田地区の優れた景観を保護し、利用促進を図り、健全な発展に尽力するなど本県観光振興に顕著な功績があった。
27	個人	上野 正藏 (階上町観光協会会長)	昭和48年から階上町観光協会に就任以来、階上岳・階上海岸の観光開発に多大な尽力を注ぎ、自然資源を活用した観光の礎を築いた。(平成25年5月階上岳と階上海岸は「三陸復興国立公園」に指定されている。)また、永きにわたり各種イベントの実行委員として企画・運営に参加し、誘客を図るなど、本県の観光振興に顕著な功績があった。
		川口 彰五郎 (おいらせ観光協会顧問)	町の観光施設である、「カワヨグリーン牧場」を長年経営してきたほか、昭和58年の下田町観光協会の設立当初から副会長及び会長の職を歴任し、平成18年のおいらせ町観光協会の設立以来、顧問として永きにわたり観光資源の創出や各種イベントの企画運営を行い、観光情報の発信に尽力するなど、本県の観光振興に顕著な功績があった。
		沢田 禮 (前東北町観光協会会長)	平成16年度の市町村合併以前より平成26年度までの永きにわたり東北町観光協会会長を務め、東北町の各種イベントの企画運営を行った他、観光情報の発信に尽力するなど、本県の観光振興に顕著な功績があった。
		坂本 府隆 (大鰐温泉観光協会会長)	平成9年より、大鰐温泉観光協会の幹部として通算18年間、大鰐町を愛し、公私において大鰐町の観光振興及び発展のために精励されてきた。大鰐温泉つづまつりを始め、大鰐温泉ねぶたまつり等のイベント運営においては、人一倍汗を流し「町の顔」として、精力的に観光PRを牽引するなど本県の観光振興に顕著な功績があった。
	団体	NPO法人 かなぎ元気倶楽部	永きにわたり太宰治記念館「斜陽館」や津軽三味線会館などの運営・PRを行い、2010年には金木地区を博物館に見立てた「太宰ミュージアム」を展開するなど金木地区の観光振興、経済の活性化に尽力している。また「斜陽館」周辺以外の場所も訪れて頂けるよう、スタッフが独自に順路を提案し、地元タクシー会社や津軽鉄道とタイアップして「一人旅にも優しい」オリジナル企画やサポートを行うなど、本県の観光振興に顕著な功績があった。
感謝状	畑中 宏之 (十和田バラ焼きゼミナール舌校長)	平成20年に市民有志で発足した十和田バラ焼きゼミナールは、「十和田バラ焼き」をツールに、地元ボランティア団体や地元の学生達を巻き込んだ街おこし活動を展開し、十和田市のブランド化や魅力発信を行ってきた。平成26年の第9回B-1グランプリin郡山では、「十和田バラ焼き」がゴールドグランプリを受賞し、全国に知られるようになった。平成27年の第10回B-1グランプリin十和田では、実行委員会副委員長として、各地でのPRやおもてなし活動に奔走するなど、大会運営に尽力した。また、当該大会は、県内外から33万4千人もの来場者があり、本県の観光振興に顕著な功績があった。	